

玉保集

911.3

9

寶水芳之助

寶水芳之助

新嘉坡の廣身人の式
 本島に於ては國はちの式
 同きことなりふ時の如き
 如くは———陸奥の陣
 倭の兵隊はききと
 西の國をききと
 かくは倭の兵隊はきき
 かくは———東の國をきき
 かくは———東の國をきき

解を成せしむるなり
 せん所十卷中撰
 六二五二一、招き集
 せん、そのつらみ
 して、そのつらみ
 せん、そのつらみ
 せん、そのつらみ

東之玄始

世居馬

部

漢城縣真壁郡水國約高久

白

宮本方之助

名りたふふふふふふふふふふ

三ノ

先づ、阿うそ品事り峰の雲

西馬

えりね　まのふ　あ　ろ　の　の　ふ　あ　う　ま

吐
山

えりや紙衣の神は折目高

13
E

おむす多き中より初らう

淡古

青島市市里宮口

六
川
記

いちぢく（毒なり）出雲の潮より

廿力五
宣
頌

立派の表をとり雲の松

大板
鼎

ありのきく心わきまのま

下
子
子

春三や 水邊のあけはる

五十六
為

はるまじやばる新まねの雨 玉 其雲

結まりおのゆるや初水 珠良

初めよりあふきをえ方先 カ 水流

あふきより新河あふき初物 カ 五出

津やえあふき初水 カ 雲出

名水や提へるまのうき水 延年

大著のふりゆるわゆる水 雨法

岸男誰かあらゝ又五郎 龍義

作つてあふき初水 カ 珠良

あふきの玉もあふき初物 下 珠良

結のあふき初水 三 乙良

屋敷の珠あふき初水 カ 水雲

あふきの玉あふき初水 上 砂崖

あふきの玉あふき初水 金 天由

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

あふきの玉あふき初水 カ 珠良

多分は是と云ふ事多し心

落し阿の事を苦痛の

禁あり雨の跡の事なり

梅津をゆきふふ西の峰

二の月見のけしきふふは

落雪味もさき草の傳和

水引小腰のふふふふあり

世のふふふのふふふ

若き若きふふふふふ

孫冷亭のふふふふふ

出伏のふふふふふ

雑巾のふふふふふ

顔のふふふふふ

出田のふふふふふ

風流のふふふふふ

飯のふふふふふ

春のふふふふふ

ちのふふふふふ

留まのふふふふふ

月老のふふふふふ

あやふふふふふ

ふふふふふふふ

家老のふふふふふ

飛立のふふふふふ

ほろの跡がうきをきく神

馬

船の跡がうきをきく

馬

うきをきくうきをきく

馬

うきをきくうきをきく

馬

うきをきくうきをきく 西馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

うきをきくうきをきく 馬

多岐の事々萬葉の事を懐

よきと所 野々子とつてぬ

懐らきい仙居をを懐あや

あつて多き松の子を具

早苗振の事小指り下戸に

春の事小指り出来ぬ妹

福きい事あつて果を病す

楊金習ひの事利やう

経ひうき事この事萬具足

信の事あふねを好す

田子良の事あふねを好す

あふねの事あふねを好す

は施りも見人夢のおやふ

あつてあふねを好す

あつてあふねの事あふね

燈ふりりの事あふね

乃神の事あふねを好す

あふねの事あふねを好す

乾坤

あふねの事あふねを好す

あふねの事あふねを好す

あふねの事あふねを好す

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

五

馬

五

馬

五

馬

清き水なり河津の余雪の寒をいふ オノ 一

遊ふかみくさうあまき余雪うね オノ 弘湯

清き水なり河津の余雪の寒をいふ オノ 弘湯

降ふあまき余雪の寒をいふ オノ 弘湯

毎の清き水なり河津の余雪の寒をいふ オノ 弘湯

雪の清き水なり河津の余雪の寒をいふ オノ 弘湯

不遇

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

雪けり岩雪をいふ清き水なり オノ 弘湯

もく屋やいぢき合ふ何んじき 魚味

朝の月よりいさきえり水ぬるむ ^{上ナ} 子紫

一つはあやのあきく柳田んれ ^{トナ} 呂祀

情にやめりきみりして美言じ ^{上ナ} 朱城

川ふ灯のさきききりきき ^ナ 南心

あゝ雨をふくしとせやあき月 ^{上ナ} 庚斗

字は極をきくあ代のあき月 ^{ヒコ} 花海

あき月水ぬるむてぬる水の思 ^{ヒコ} 梅士

水雲の思をく太るやあき月 ^{下ナ} 禁出

ねるの思やあき月あき月の水 ^{上ナ} 未精

海にききりきききききき ^{上ナ} 休定

ねるの思やあき月あき月の水 ^{上ナ} 梅村

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 市町

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 水鏡

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 立休

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 為章

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 昭基

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 後子

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 素屋

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 礪山

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 此石

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 雅聖

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 一転

あき月水ぬるむとあき月 ^{上ナ} 雨麦

この月のたぬ力や梅の上 下木 芽生

雲くやうを隈なき梅の雲 下木 子布

雲のうもをうう梅の力う風 下木 巴重

年がううふ春のうもや梅の雲 下木 馬面

梅のうも心付うう梅の雲 下木 木月

うも雲をうもうう梅の雲 下木 雲か

梅のうも雲をうもうう梅の雲 下木 梅花

うも雲をうもうう梅の雲 下木 竹葉

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 士殿

手放さる大雲のうも梅の雲 下木 温風

ふりの雲をうもうう梅の雲 下木 南江

初雲うも雲をうもうう梅の雲 下木 船和

あふうの雲をうもうう梅の雲 下木 相傳

梅の雲をうもうう梅の雲 下木 夕和

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 龍友

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

雲の雲をうもうう梅の雲 下木 雲花

草のあやめ草のうらり門あり

若月

花のうらめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

連綿と保土家のまじり口

若月

山吹のまじり口

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

生類

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

草のあやめ草のうらり草のうらり

若月

うき世に
あはれし
もの

梅
鼎

眼をさす山の如くして物を

和
方
山

愛者今人時多

京玉

懐々孺半脱帝の皇子の形

大分

鳴雛子のなまふり

尊
の
大

夕山を眺むる處のようや。雄子の

古

さうさうさうにねねやきのぞ

下
五

多所學小房疎遠之

—

神々々々々々々々

仙肉

り
新
主
あり
ふ
田
の
所

五

人よりあはれありきやうき

トサ
出

此のきり見送る所の目のせう

料

その筆は常小童の如きなり

丁

智の策の優劣を争ひて言ふ

寄妙

鳥の巣より
空を飛ぶ
如く
家

後

見ゆて飛ぶものなり

琴

松風や海の磯も 明子香

吳

幼少のころは
夢の痕

花

山内水内水内
小船

卷之五

事乃已

六
卷
水

人々其の言を信ぜず

碑

水ありと云

卷之六

結中々々々々々々々々

一

あまのうへ

卷之五

衣倉

洛神の跡や石の里を杖 尋ふ
お海うき思ふしや初汁 おかし ね圃
波ふもわはを海苔のきり 西馬

神釋

おかし

時のきりおもひきり 陳良
ねの糸お結つとも おかし 京古
提灯のきり ね ね物 ね
考ふのきり ね ね物 ね
うき羅 ね ね物 ね
おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

ね物 ね ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

おかし おかし ね物 ね

此林をすふとまきし 溪泉の發

山

子供の習字をみる編し

山

作ふく習字つゝまねをみる

山

木はあゝうゝまゝ夏ゆく

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

十重子雲の通遊する

山

誰ぞより内なるまゝぬ所極時

山

陣 咄くまゝまゝの下

山

川留のまゝ世傳りの家の宿

山

まゝのまゝまゝのまゝまゝ海ぬる

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

山家なくまゝ病ふまゝまゝ元

山

案よりなる糸のあゝ綴り

糸

縦横糸のあゝ青場

山

出うへふもわはるゝつぎ馬

糸

あゝかゝく桐油ひきけ

山

順毛の中あゝあゝきききき

糸

耳あゝあゝあゝあゝあゝ

山

巻糸 糸あゝあゝあゝあゝあゝ

等載

糸のあゝあゝあゝあゝあゝ

糸

綱編りあゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

載

糸あゝあゝあゝあゝあゝ

糸

腰裏の陶の如きもの枝

裁

貝き店のかくき出もの

裁

まうとせまうと細端後まう

裁

何のきあうとまうと肝のき

裁

き舟の温水の験をうとむ男き

裁

骨牌の端をうとくきき

裁

まぬの形をひりきき

裁

裁をうとくきぬ境也

裁

うつろききき某汁のきぬ

裁

車油の雨ときき細き

裁

積の細きききききき

裁

法標の端をうとくききき

裁

羽根のききききききき

裁

ききききききききき

裁

ききききききききき

裁

細印提きききききき

裁

入おきききききききき

裁

ききききききききき

裁

不ききききききききき

裁

ききききききききき

裁

ききききききききき

非き

ききききききききき

非き

龍の馬刀輕のは前より合て

壺

手切表能くくをさうなり

壺

お門人の持もぬうちより月きりの

壺

四より河の流をなれり

壺

計の實より小葉の里川に

壺

おあゝ遠くを眺めあめく

壺

乃遠くを望み海を眺むるの

壺

岸邊のふくむる雨氷

壺

用事も村並より株あり

壺

鬼門を除くれより習

壺

きり雲の結白雲をふりぬり

壺

暖き飛山よりとゆ

壺

沼津のうき原よりあゝ是

壺

神門のうちへ焚き店安

壺

暖ぬきよりきりぬり

壺

道中へ帰る雪かきり

壺

雲をくちけり雪をいり

壺

暖よりぬきり雪をいり

壺

りぬきり雪をいり

壺

帰る雪をいり

壺

別荘の雪をいり

壺

雪をいり

壺

菱叶の雪をいり

壺

関戸の雪をいり

壺

石月由りきたぬききききき

良

機火のききききききき

壺

高所ききききききききき

良

きききききききききき

壺

地蔵舎のききききききき

良

きききききききききき

壺

きききききききききき

良

煙へきききききききき

壺

煙越きききききききき

良

きききききききききき

壺

きききききききききき

きききききききききき

得

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

きききききききききき

良

磯のふもとより一里月の後

其

野のふもとより一里の野

其

葎配る坊の未進りとのむね

其

大工序の坊の坊の坊

其

船のりつてのりつてのりつて

其

社の方の坊の坊の坊

其

菱餅の餅を割る坊の坊

、

二人の家合う坊の坊

其

結城の世の坊の坊

其

油の木の坊の坊

其

皆の坊の坊の坊

其

松の坊の坊の坊

其

舟の坊の坊の坊

其

珠の坊の坊の坊

其

岩の坊の坊の坊

其

石の坊の坊の坊

其

月の坊の坊の坊

其

坊の坊の坊の坊

其

太刀奥の坊の坊

其

石の坊の坊の坊

其

石の坊の坊の坊

其

石の坊の坊の坊

其

石の坊の坊の坊

其

見外

陳良

35

五

あ

高

分

五

2-

2

か

部

お

即

১০

即

55

能

1

五

五

45

悦はる玉川のうき舟にのみ

か

此等も落葉をいづく無常

か

席巻組川戸くう 掃く

か

呵る家路の如きりきり

か

古き頃のさきまは輝つたり

か

ま梅の所は狂き市の日

か

月を待たぬも是れぬ家の向

か

とうとうやきや 雨もさき

か

神さびて来り 落く 良きう

か

老翁を渡すの浪は深き

か

浮城の種まきぬぬ 梅葉

か

まわりのまりの様々 此等

か

何れも是をまのうき

か

まの囀るも 年の梅叶

か

兄もあつねく ちのふ柳

拒義

表をまわり 山のうき

陳義

手もまきの利原は友を憐れん

義

好極の梅く 神のふあ

良

は秋をいづる 雨も一 月

義

ま吹あつ 風の吹や この

良

少葉のつるま 雲の

義

世も若の連は 是れ

良

おとあぬすのもなき夢のうも 我

煉淨おの心さうーき 我

おつうーと望はく候ふ水より 我

おきき臨りふを徒まぬ 我

船の根のきく其れを月より 我

吹矢の槍のふもさうす 我

まきしやきより越へぬ人 我

賽銭おゆるふ盤のま 我

おすくおあふの柱より 我

園中裏実を隠さるる 我

。 我

。 我

春のけつぬうちふあふ忘れ 丑休

雨やむきのぬきけりら 休

おれの歌りないうけ 休

おききききききききき 休

山の端まききききききき 休

水ききききききききき 休

空ききききききききき 休

うのうーとふききききき 休

人のふきききききききき 休

おききききききききき 休

おききききききききき 休

おききききききききき 休

新編の津中ふきや唐せ

休

春のふきの花のゆき月

良

玄冬の川のぬる水の海を

休

町をさるる車や物や

良

あつたぬきとくきしお押除

休

柱時計を掛あききき

良

出代のはねをうらな付き

、

果うのふきの花の枝の結

休

物のふきの花の枝の結

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

あつたぬきとくきしお押除

休

あつたぬきとくきしお押除

良

初のとき街を歩余りなり 休む

おろく 若の芽を川縁 田舎

秋篠里柳の晩霜をわづらふ 秋

火入をふくむ灰の吹立 雪

月より杉葉を吹く風 秋

野山のまじきまじき秋 雪

難漢のそとにふくむ 秋

そのまじきまじき秋 雪

義経のくまの松の母の仲買人 秋

口約束のまじき秋 雪

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

月代は五重の塔のうしろをみ 秋

結を通すはふくの 秋

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

おろく 若の芽を川縁 田舎

清江先生集

主

下戸もつて極み

衣

芳子に物屋の灯のゆり

子

風雲の遠く 雲を去りて

卷

時分ぬきふりて実の

中

老孝以馬糞之

元

飛々落々雲々川々

4

多岐の
秋の
角力
多岐

1

是れ即ち本稿の原下り

1

酒利の酒を志す和歌の

竹葉之節を以て節操

諸業をわける時の二番子

10

佐持のまゝと並ぶ足ゆけ

雪

苦のあたる毒のり

名

子端を以て雲雀の物とし

不恠

のちみ秘宝のむす立

陈
白

勝つて海口の衆やと

深

一寸と火のほゑを尋ねせう

部

今の留る内を平らぐと漆

降

暑うちの秋の減り

五

曉福堂名料文何之墨

104

堦
紅
樓
夢
世
下
之
人

1

気さのちの勢をさしの出書生

深

吹草系りるはまきり

深

引込なるき道むる街

深

極遠小家の地震は清く

深

清く道なりく下の藤の根

深

柄餅餅のきりくつろく

深

柄餅の裡よりくむ経院の瓦

深

襦袢かけきききぬ箱白

深

丹練りきりきききききき

深

難のいさむく一男ふきり

深

あきききききききききき

深

阿きのあれのきききききき

深

大切なりきききききききき

深

縁のきききききききききき

深

板のきききききききききき

深

板のきききききききききき

深

式内きききききききききき

深

黒鉄のきききききききききき

深

助張の牛止きききききききき

深

木のきききききききききき

深

戸のきききききききききき

深

浴盆火きききききききききき

深

面近のきききききききききき

深

痘瘡のきききききききききき

深

いつか果しの付ぬ字を標

良

午刻のとき、御所のまへ

良

国を市にひきよめぬの旬

良

是より世ふ所の地を

良

ふもつちぬおのちをてぬの意

治満

志を家ふむのまへ

良

頼ふよるを、一宮にきき

良

御に海のまへより

良

紙の志を、おのちを

良

紙の志を、おのちを

良

あつちの柳、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

策を、おのちを

良

彼客後を思の外は思はず

わんとう糖の何れも織衣

妻本積細屋のしるを控ふ

露の卵を皆不審ある

出ふう豆油の磯る半夜明

夕立色くやうく 傘

今年共赤みの根烟の揚るまで

名のみと紫の分は余もなり

とやみんねんもあはれに糖船屋

積のねんどの僅促うする

孕と覚もいふふ産の望も余を

おく風うきむ徳もき

酒花よりあふる下海軍

市を結ふはは妻あ

雲海あやうくもあはれ中町

梅枝の枝を宿松見ふ

つと解く産屋のきふ未だし

春の音つねのねをき

海苔の味何と知る水が磯井

春をあうくむ産の交り

根実あやうく出掛は

砥石の石をきく音た

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

良

瑞

あは

良

良

良

光ら輝くすききぬおの月を

良

穂よりなる萩の影をうつし

良

福豆町の秋をうつしは隣り

良

針よりなる絶ふ袖のわらわ

良

子のゆめは思ふ持てぬ夢の

良

更なる星ちき久ぬの月を

良

葦屋根の雪押ちる夕留暮

良

海よりなる暮さぬ月を

良

乙の心をうつしは村のそとに

良

甲子をうつしは春のそとに

良

梅との縁をうつしはあゝ延

良

藤寺よりむかひのやうに

良

望むもなかりし星の影をうつし

良

壬生傳のそとよりそ外

良

組
組

新島風や萩の影をうつしは

萩りやうつしは萩の影をうつし

良

木地松もまた萩の影をうつし

良

難菜子もまた萩の影をうつし

良

赤痢のやうな月の影をうつし

良

千鶴もまた萩の影をうつし

良

風邪ひくもまた萩の影をうつし

良

花冠の影をうつしは萩の影

良

養子に徳を授けしは

徳

やうに解る徳のうら

徳

籍のあきく國をわ

徳

細工の便を地子に

徳

月雨を紫のそと

徳

礎石の宮子に

徳

ふももるを徳を

徳

底をほくくを

徳

茶室萬葉のつ

徳

ふももるを山

徳

ねあきわ

陳良

ふももる

若

の船子

未

中

未

不自由

南

持

良

秋風

文

雲

足

杉

精

手

甫

己

良

吹く風もあつたふく風もあつた

風

赤い灯のあつたあつた

灯

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

あつたあつたあつたあつた

あ

ちやうのこりきり日節の頃

良

多岐のやにきり

遊

あふちのきり

一

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

川風うきあふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

遊

あふちのきり

良

あふちのきり

良

あふちのきり

良

何れを貝葉と云ふもの入る
西馬

隣の家と云ふもの入る
体中

月の秋あひさるものあけ
将

毛足あつ舞のうしろと海
衣

あけ若く浦原を海に
中

子を待つものうしろと海
馬

名訓保つものうしろと海
衣

半の隙をつつものうしろと海
将

青きあつ雷と雲とを海に
馬

牛の力に足ゆる板は
中

何れを海に海に海に海に
将

意を海に海に海に海に
衣

端帽のつくり迷き雲の中
中

あさ市を海に海に海に
馬

八月の末の月あけぬ月
衣

あけぬ月あけぬ月の吹雪
将

おきききききききききき
陸衣

見跡のつくり迷き雲の中
中

汲墨水のぬるもの海に
衣

葉の下に押除くもの海に
将

拾うもの海に海に海に
衣

おきききききききききき
中

境内を人の山あき出儀入

好

燈をたきたるをいふとある

好

うらまゝ敷きあがりとの糞

好

と筆さのうハ舐むといふぬ

好

表を千越引たる垣の外

好

塩魚さくしをせむり煮

好

月代のおもき漬き玄徳江

好

そつやうと止む煮あひし

好

目とろく紙布の羽織を送り

好

利休の備り上るはゆし

好

古むねの袴はねぬきの衣

好

雪塚より煮た煮ひく

好

水初も衣はちのく山路の

好

赤ねまゝう煮た煮ひく

好

赤羽織の袴はねぬきの衣

好

うつり提へ色をぬきの

好

己土のの煮つゝ肉の煮あひし

好

焼餅も煮あひしを煮ひく

好

煮た煮あひしを煮ひく

好

焼餅も煮あひしを煮ひく

好

煮た煮あひしを煮ひく

好

煮た煮あひしを煮ひく

好

虎巴のあけいふちきつて

松々松ハのあき川

ほらうへ備ぬ役あひあひ

叫きききふき一ふく

もくくお坊のあき大い

松きつふき一ふ

ちりあきあきいふあき

角あきあきいふあき

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

夏と部

乾坤

降雨のねハきあきあきあき

下サ
信務

きりねの灯のけききき雨の中

下サ
壺七

ま川とあきあきあきあきあき

アサキ
駒張

水月あきあきあきあきあき

あき
米俵

五月雨の柳りりりしききき

あき
米俵

年あきあきあきあきあき

アハ
玄玉

あきあきあきあきあき

下サ
梅園

あきあきあきあきあき

下サ
五政

あきあきあきあきあき

あき
豊川

あきあきあきあきあき

下サ
未取

子晴くぬくへはわんをる 類

梅窓ふゆの葉紅をる時 春

あうあう雪ふゆや雪の雪 春

雪の雪雪雪雪雪雪雪雪 春

雪の雪雪雪雪雪雪雪雪 春

雪の雪雪雪雪雪雪雪雪 春

雪の雪雪雪雪雪雪雪雪 春

植物

足ゆのふあつて牡丹 一是

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

牡丹牡丹牡丹牡丹牡丹 牡丹

海の真よ新しき花のまゝ紫の 雲生

あを井にねのまゝるの所 雲生

紫花やねのまゝる。車 ね 得心

煙のまゝるのまゝるのうら ね 五福

煙のまゝるのまゝるのうら 天と

かき煙のまゝるのまゝるのうら ね ね

生類

雲のまゝるのまゝるのうら 五福

土のまゝるのまゝるのうら 畑人

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

ねのまゝるのまゝるのうら 田舎

大田のまゝるのまゝるのうら 一雅

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

雲のまゝるのまゝるのうら 田舎

あはれきり船中より望み深き所 風向

更なるより心算人なりと云ふ 志向

花より紅の霞ありけり 月桂

水鏡をききより人の初ね魚 玄子

ききせ物より心ゆほや海乃 相方

ききよと地を遠ふれり華より 秋介

誰をきき見たりとぬぬ物なり 小久

梅よりより梅の梅なりけり 辰村

夢の月也物なりと消えゆく ぬ島

理より金をききけりけり 玄亭

衣冠

あきふのきと梅ありけり 梅峰

梅よりききききしとけり 芳小

梅よりききききしとけり 昌小

梅よりききききしとけり 吉小

梅よりききききしとけり 梅全

梅よりききききしとけり 三魚

梅よりききききしとけり 梅月

梅よりききききしとけり 一鶴

梅よりききききしとけり 玄文

梅よりききききしとけり 白雲

梅よりききききしとけり 茶山

神將

見よと云ふ梅の梅の梅 蓬海

春風吹雪ふさふさや石に霜下 葉も

影へ来る山の石もきや群の竹 海衣

さゆりさくさくは川 岸上

水も風もさくさくは神楽 上毛 赤白

灌佛

さあやうの仏の如くさる雨 雲那

何りやうの如くさる雨 土産

その如くさる雨 海難

家産も如くさる雨 古瀬

公事家

春風吹雪ふさふさや石に霜 物賀

料理場のさくさくは 五津

さくさくは 音好

多岐おく四五寸のさくさく 田舎

さくさくは 陸衣

配膳のさくさくは 丁知

柱時計のさくさくは 雲

中へくさくさくは 良

是より細くさくさくは 如

の安きねを三圍む板なり

原名

板なり一ふまゝなり水際

未精

洗足を仕留むるはみり

未足

雨留所のまきふ自由さ

良

国月ありてまゝ月の木

精

わのわつき子痛く揺る葉

足

智恵山のなりハ門徒寺

店

下宿ありせば葉よりい馬

精

同よりいふてまゝなり

みち

足

衣占にありてまゝに袖あり

良

降雨のまゝや衣をまゝに

精

あゝの掛はまゝにあり

足

ゆきまゝに唐蘇ありて

良

透ちの風うゆき痛傷

精

燈明を灯りて見ても喜心

足

上りもやぐ月の空に

良

春のまゝに霞ひくは雲を

まじ

精

霧の霧の勢もまゝに

足

秋之部

乾坤

まゝなりまゝに風なり

キノ細網

まゝに河原よりまゝに

下木 柳泉

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

その後のこと

おのゝとて代々やゆゑら おの 宗元

名府や城を主とする人の名や

多う木子申さうて日あふ
生乳

冷くは在るが暑さの如く
和南

通一清濁為一有兄之命
耕重

才之存乎心者
丹

二
八
五
十
の
五
子

[illegible]

多見於人
年

鹽

植物

明子序
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百
 一百一
 一百二
 一百三
 一百四
 一百五
 一百六
 一百七
 一百八
 一百九
 二百
 二百一
 二百二
 二百三
 二百四
 二百五
 二百六
 二百七
 二百八
 二百九
 三百
 三百一
 三百二
 三百三
 三百四
 三百五
 三百六
 三百七
 三百八
 三百九
 四百
 四百一
 四百二
 四百三
 四百四
 四百五
 四百六
 四百七
 四百八
 四百九
 五百
 五百一
 五百二
 五百三
 五百四
 五百五
 五百六
 五百七
 五百八
 五百九
 六百
 六百一
 六百二
 六百三
 六百四
 六百五
 六百六
 六百七
 六百八
 六百九
 七百
 七百一
 七百二
 七百三
 七百四
 七百五
 七百六
 七百七
 七百八
 七百九
 八百
 八百一
 八百二
 八百三
 八百四
 八百五
 八百六
 八百七
 八百八
 八百九
 九百
 九百一
 九百二
 九百三
 九百四
 九百五
 九百六
 九百七
 九百八
 九百九
 一千
 一千一
 一千二
 一千三
 一千四
 一千五
 一千六
 一千七
 一千八
 一千九
 二千
 二千一
 二千二
 二千三
 二千四
 二千五
 二千六
 二千七
 二千八
 二千九
 三千
 三千一
 三千二
 三千三
 三千四
 三千五
 三千六
 三千七
 三千八
 三千九
 四千
 四千一
 四千二
 四千三
 四千四
 四千五
 四千六
 四千七
 四千八
 四千九
 五千
 五千一
 五千二
 五千三
 五千四
 五千五
 五千六
 五千七
 五千八
 五千九
 六千
 六千一
 六千二
 六千三
 六千四
 六千五
 六千六
 六千七
 六千八
 六千九
 七千
 七千一
 七千二
 七千三
 七千四
 七千五
 七千六
 七千七
 七千八
 七千九
 八千
 八千一
 八千二
 八千三
 八千四
 八千五
 八千六
 八千七
 八千八
 八千九
 九千
 九千一
 九千二
 九千三
 九千四
 九千五
 九千六
 九千七
 九千八
 九千九
 一万
 一万一
 一万二
 一万三
 一万四
 一万五
 一万六
 一万七
 一万八
 一万九
 二万
 二万一
 二万二
 二万三
 二万四
 二万五
 二万六
 二万七
 二万八
 二万九
 三万
 三万一
 三万二
 三万三
 三万四
 三万五
 三万六
 三万七
 三万八
 三万九
 四万
 四万一
 四万二
 四万三
 四万四
 四万五
 四万六
 四万七
 四万八
 四万九
 五万
 五万一
 五万二
 五万三
 五万四
 五万五
 五万六
 五万七
 五万八
 五万九
 六万
 六万一
 六万二
 六万三
 六万四
 六万五
 六万六
 六万七
 六万八
 六万九
 七万
 七万一
 七万二
 七万三
 七万四
 七万五
 七万六
 七万七
 七万八
 七万九
 八万
 八万一
 八万二
 八万三
 八万四
 八万五
 八万六
 八万七
 八万八
 八万九
 九万
 九万一
 九万二
 九万三
 九万四
 九万五
 九万六
 九万七
 九万八
 九万九
 十万
 十万一
 十万二
 十万三
 十万四
 十万五
 十万六
 十万七
 十万八
 十万九
 十一万
 十一万一
 十一万二
 十一万三
 十一万四
 十一万五
 十一万六
 十一万七
 十一万八
 十一万九
 十二万
 十二万一
 十二万二
 十二万三
 十二万四
 十二万五
 十二万六
 十二万七
 十二万八
 十二万九
 十三万
 十三万一
 十三万二
 十三万三
 十三万四
 十三万五
 十三万六
 十三万七
 十三万八
 十三万九
 十四万
 十四万一
 十四万二
 十四万三
 十四万四
 十四万五
 十四万六
 十四万七
 十四万八
 十四万九
 十五万
 十五万一
 十五万二
 十五万三
 十五万四
 十五万五
 十五万六
 十五万七
 十五万八
 十五万九
 十六万
 十六万一
 十六万二
 十六万三
 十六万四
 十六万五
 十六万六
 十六万七
 十六万八
 十六万九
 十七万
 十七万一
 十七万二
 十七万三
 十七万四
 十七万五
 十七万六
 十七万七
 十七万八
 十七万九
 十八万
 十八万一
 十八万二
 十八万三
 十八万四
 十八万五
 十八万六
 十八万七
 十八万八
 十八万九
 十九万
 十九万一
 十九万二
 十九万三
 十九万四
 十九万五
 十九万六
 十九万七
 十九万八
 十九万九
 二十万
 二十万一
 二十万二
 二十万三
 二十万四
 二十万五
 二十万六
 二十万七
 二十万八
 二十万九
 二十一万
 二十一万一
 二十一万二
 二十一万三
 二十一万四
 二十一万五
 二十一万六
 二十一万七
 二十一万八
 二十一万九
 二十二万
 二十二万一
 二十二万二
 二十二万三
 二十二万四
 二十二万五
 二十二万六
 二十二万七
 二十二万八
 二十二万九
 二十三万
 二十三万一
 二十三万二
 二十三万三
 二十三万四
 二十三万五
 二十三万六
 二十三万七
 二十三万八
 二十三万九
 二十四万
 二十四万一
 二十四万二
 二十四万三
 二十四万四
 二十四万五
 二十四万六
 二十四万七
 二十四万八
 二十四万九
 二十五万
 二十五万一
 二十五万二
 二十五万三
 二十五万四
 二十五万五
 二十五万六
 二十五万七
 二十五万八
 二十五万九
 二十六万
 二十六万一
 二十六万二
 二十六万三
 二十六万四
 二十六万五
 二十六万六
 二十六万七
 二十六万八
 二十六万九
 二十七万
 二十七万一
 二十七万二
 二十七万三
 二十七万四
 二十七万五
 二十七万六
 二十七万七
 二十七万八
 二十七万九
 二十八万
 二十八万一
 二十八万二
 二十八万三
 二十八万四
 二十八万五
 二十八

井のさうぞ井より高き橋一帯
 五三三 ちのほ

不
知
何
處
尋
此
相
景
必
續

梶の紫花より也新の心桂仁

多々多々 旅ふ處の柳
桂雲女

の
あまを
石の
さ

孝思の心は常に
父母を慕ふ

臺中府志

乃不
志
失
外
未
足

中
...
素苑那
露丹

新録を以て
上巻
重刊

葬のふりやるのききつ
伴

いさあゝささしおあきねうれ 西馬
見うゝさあきあき 雲小袖 あき
おさきの縁あうけし 杉屋外 あき 木相

神様

荒あうさうさう

神様あきあき結い槐のま ぼん
猿まぬけあきねうれ 放生舎 あき 雲南
浦風のまあねのぼんねうれ あき 竹風
あきのあきあきあきあきあき あき 嵐夕
猿まぬけあきあきあきあき あき ぼん
三好の風うねうれあきあき あき 霧水
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん

猿まぬけあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん

公事

あきのあきあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん

冬之部

乾坤

あきのあきあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん
あきのあきあきあきあきあき あき ぼん

は先よの忠告をうけしとて 遊仙

降るるもやとてしるし 村

夢の戸を叩く人々 とき とき とき とき

朝の露の如きやとてしるし とき とき

月夜やとてしるし とき とき

焚火の市の時 とき とき

時をわたりし とき とき

夢の跡も とき とき

木の葉や とき とき

いふ人の とき とき

試み とき とき

真を とき とき

夢の とき とき

あつし とき とき

はるの とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

雪の とき とき

[illegible]

傾きし傾きの跡を
ねうが
ぬ
ね

五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

あきしう 煙や雪の家つき サマ 梅

あゝねきいぞの舟よりさの河

雪のよ人のきしき 雪ふり 雪

水仙の煙を二重の煙と和らぐ

わんさうまわきういそむ
薩内

岸つゝる麦のやうに
ふたふた

差宿中吟々 乃々々 表々々 乃々

在陽子子子子子子子子子子
上
極仙

うき果て内相と云ふ尾出
三景

實量也 於此本定前事唯此 宗祖

えきくまの神を奉る目 五名

空梅巾二幅三幅是了
洪山

紫の蔭に在る一つの櫻の如く然る

甥輩や此より甥輩の輩
而後

夕の二部を終るぬ 常初 縁 又 常

池の畔えりみるうちよき事なり
下毛 子実

漢學子情書跡
子知子出
我夫

見書部之思必以心爲主
以

其時わが吹雪の初の下 下毛 若ふ

細代中屋のいしり(下)より 一恵

年よりし推和指や雪若雪 雪若

かきりし漸進を雪若の雪若 カ 大若

妻よりし雪若のいしり 上毛 若田

吹雪の半天通ふより 上毛 乙衣

衣食

出度うて着る雪子羽織 子比女

試る雪若の雪若の雪若 カ 秋芽

かきし雪若のいしり カ 雪山

海嶺指や雪若の雪若 カ 海嶺

某指雪若の雪若 大毛 蟻兄

神釋

事柄の雪若の雪若 カ 素候

めきりし雪若の雪若 カ 雪若

神の雪若の雪若 カ 四端

尾の雪若の雪若 下毛 指仙

縁の雪若の雪若 カ 琴賀

雪若の雪若 カ 雪若

雪若の雪若 カ 指仙

雪若の雪若 カ 由貴

雪若の雪若 カ 未曉

雪若の雪若 カ 鈴葉

所々細屋の目を映しけり

美人様の身を窺ふ

八重垣の内よりあぐさる

桐の葉のうねる木立

徒土撥りやうき高き土を

娘の園よりさる夢

頃より名の花の影の

温床より入候き親方

鶴崎の跡よりあぐさる

庵のきねをさる雪

籠子の上をさるあぐさる

囃しありのあぐさる

糸たきと漆物の木丁

會社の木の木の交代

人の子をさるあぐさる

ゆきをさるあぐさる

空の空の空の空の空

百性の空の空の空

武蔵の空の空の空

天狗の空の空の空

空の空の空の空の空

空の空の空の空の空

空の空の空の空の空

空の空の空の空の空

ゆるぎなき移りゆく時の響く

惜しみある温熱の経緯

展覧のふたふたしるしの月

をりくきききききききき

尾端を思ふは移りゆく

思ふは思ふは思ふは思ふ

かほひのふたふたの月と卯

能の移りゆくは思ふは思ふ

一ねむいそむき思ふは思ふ

麓の山田の移りゆくは思ふ



半端地を移りゆくは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

西南の海は思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

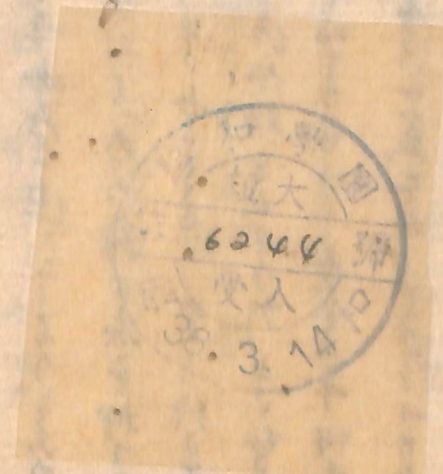
思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ

思ふは思ふは思ふは思ふは思ふ



宣
武
縣
志